

1 本年度の学校評価をふりかえって

今年度は「ことばは心」を重点に、豊かな心とたくましさを育む教育活動、学力向上に向けた指導の充実、互いに心が通い合う学級づくり・集団づくりの推進、地域に開かれた学校運営の4つを柱として、学校教育目標の具現化を目指し、教育活動の工夫改善に努めてきた。特に、秋田市教育委員会課題研究推進校の委嘱を受け実践を進める中で、共に学ぶ問題解決型の学習を通して考えを話し思考を深める子どもの姿が着実に見られるようになった。今後も保護者や地域の理解と協力を得ながら、教職員の協働体制をさらに強化し、よりよい学校教育活動を進めていきたい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	豊かな心とたくましさ を育む教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 心の有り様が言葉となることから、互いに心を開き、心からの言葉でつなぎ合う子どもを目指し教育活動に取り組んだ。体験的な活動や道徳教育を通し言葉を介した共感的な人間関係づくりを行う中で思いやりの心が育ってきている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「品性の向上」を目標に掲げ、家庭や地域社会と連携しながら日常の指導に当たるとともに、道徳教育やキャリア教育の工夫改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎号、校報で品性の向上に関する記載があり、意気込みを感じる。道徳教育で時間を掛けて品性の意味を浸透させて欲しい。 道徳教育の一層の充実を図り、言葉により互いを認め合い健やかな成長に結び付くよう工夫が必要である。
	学力向上に向けた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 算数科を窓口の問題解決型の学習を通して考えを関連付け、比較・検討する双方向の話し合いを積み重ねた。これにより、思考の深まりや話す力の向上が見られた。 基本的学習習慣の定着を図り、音読、スピーチ、読書等の日常的取組を併せて行うことで、学習を支える基本的な底力が着実に付いている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・協働的に学ぶ力の向上」を目指して、問題解決型の学習についてさらに研究を深めるとともに、全校で実践を積み重ね日常化するよう努める。 基礎的・基本的な力の定着に向けて、ノート指導、学び直し、漢字や計算、家庭学習等の継続的な取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの考えを自らの言葉で根拠を示しながら発言できることは素晴らしい。 家庭学習への先生からコメントが子どもたちの励みになっている。 主体的、協働的に学ぶよう改善を進めており、今のままの方法で進めてほしい。
生徒指導	互いに心が通い合う学級づくり・集団づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 互いに認め合う場を各学級で工夫するとともに、児童会活動や異学年交流など子どもの主体的な絆づくり活動を充実させ、主体的で達成感のある経験を味わうことにつなげることができた。 教師の連携やチームでの対応、関係機関との連携により、いじめの未然防止や早期発見、早期対応の充実を図るようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学級や学年の活動を通して一人一人の活躍の場を整え、存在感を感じ、個性を発揮して自己有用感を育むことができるように、全校での取組の工夫を図る。 「いじめは常に起こり得る」という危機意識をもち、子どもの悩みに寄り添い、いじめ等の早期発見、即時対応に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 正否にかかわらず互いを認め合い、出来たときは大いに褒めている。 異学年交流は自身の成長を実感し、絆を深める良い機会である。 全職員の一層の連携強化を望む。
家庭・地域との連携	家庭や地域社会との連携を重視した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 農工商業や住宅地が計画的に街作りに取り入れられている御所野地区の特色を各教科の学習を通して実地に学び、協力して下さる多くの地域の方々との触れ合いを通し、御所野のよさを感じ、誇りに思う気持ちを育てている。 学校報の発行回数を増やし、学校経営の基本的考えと教育活動をさらに具体的に知っていただくように努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然や教材・人材等と各教科等の年間指導計画を継続して見直し、計画的・系統的に学習活動に取り入れることで、地域の中で学ぶ機会や体験の充実を図る。 学校行事や地域との合同行事、交通指導、見守り活動、防災活動等を機会に、家庭や地域社会と一層の連携強化に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが地域や各町内の活動によく参加している。その中で上級生が下級生の面倒をよく見ている姿が見られる。 共働きが多いため、児童センターを含め地域全体で子どもを守っていく必要がある。今後も学校と地域の連携、協力が欠かせない。 ボランティア精神を育む指導も必要である。
学校間連携	地域の幼稚園や保育園、中学校との校種間連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 校種間の連携を図り、御所野地域の子どもたちの成長を連続的に支援する協力体制を整えるように努めた。 定期的に小中教職員が情報交換し、学習面と生活面の両方から義務教育9年間を見通した指導計画の改善に取り組み、継続実践に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 指定中学校の変更に伴う新たな体制や連携の在り方を小中間で見直し、共通理解を図る中で子どもたちが希望をもって進学ができるように取り組む。 学習や生活に関する共通指導計画は今後も改善を図り、連続性のある学校教育活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学院中学校が指定中学校となり、一層の協力関係を築く工夫が必要である。希望をもって就学、進学できるよう情報の共有化、校種間の連携を図って欲しい。